

和光市環境づくり市民会議 第131回定例会議事要録

(市長・教育長・市民環境部長との懇談会)

日 時 平成29年2月10日(金) 16:00~17:05

場 所 市役所602会議室

出席者 9名 峯岸正雄 高橋勝緒 渡辺康三 竹内綾子 高橋絹世 東亮太
新井昭夫 小林新 芝勝治

松本市長、戸部教育長、本間市民環境部長

傍聴者 1名

事務局 和光市環境課 大野課長、工藤課長補佐、金岡

次 第

- 1 開会のあいさつ(峯岸会長)
- 2 市長、教育長あいさつ
- 3 平成27年度環境施策実施状況に対する評価と提言について
峯岸会長より、評価・提言について説明をいただく。

自然環境の保全に関しては、白子宿特別緑地保全地区が指定されたことは非常に喜ばしい。しかしながら、全体での緑地や湧水の保全については、進捗が思わしくないようだ。難しい問題だとは思いますが、緑地保全計画にも明記されているように、財源の確保策についての具体的な進捗をお願いしたい。特に生産緑地の問題の影響が心配されるので、有力な緑地の確保についてあらかじめの対策をお願いしたい。

また、ふるさと納税制度からなる寄附金制度については、湧水と緑地の確保のための基金としてはピンとがぼやけるので、ぜひ独立した新しい基金を再設定していただきたい。

地球温暖化対策に関しては、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の中間見直しが行われ、内容が非常に意欲的で具体的な目標も掲げられているので、実現に向けて努力願いたい。

パートナーシップの仕組みづくりでは、総じて環境団体との連携はうまくいっていると思うが、大人向けの環境教育については置き去りになっている感が否めないなので、生涯学習課とも力を合わせて、また、我々環境団体としても協力するので、ぜひ目に見える形でつないでほしい。

4 意見交換

各委員が順に意見を述べた。

【高橋勝緒委員】

緑地の維持について、予算の面で難解だとは思いますが、だからこそ工夫してほしい。財源確保策などの調査研究費を予算化し、業務化するよう検討してほしい。

また、今回の環境基本計画推進調整委員会に学校教育課が参加したことは非常に心強い。環境施策は教育との連携が重要である。学校での環境教育だけでなく、大人向けの環境教育も強化してほしい。環境教育の推進は、環境課も当会も関与できると思う。

【渡辺康三委員】

役所の予算制度上、長期継続事業は難しいのかもしれないが、単年で実施した事業にその後の予算がつかず、放置されることが間々ある。和光市には湧水などのいいところがたくさんあるので、NPO法人が手助けして保全したりもするが、ぜひ予算付けて永続的な保全に取り組んでもらいたい。

【竹内綾子委員】

新倉小南側の斜面林が開発され、更地になってしまった。近所の人話では、相続があつて売却されたらしい。ヒロハアマナの自生地だったため、思わずため息が出た。白子宿特別緑地保全地区のように、地主の理解があり、保全できる地域が増やせたらと思う。

【高橋絹世委員】

白子宿特別緑地保全地区という、都市部の中で湧水を中心とした緑地が指定されたことは非常に貴重なことである。ここは熊野神社と大坂ふれあいの森が一体となった白子湧水群の中心地として、和光市だけでなく、都市部の自然として重要である。このような指定は大変うれしく、適切に保全し、適度に活用してもらいたい。地域にこれだけ素晴らしいところがあるので、学校教育でも活用し、バーチャルな授業と併せて実物を見てもらいたい。そうすることで印象に残る。バランスの取れた保全を望む。

【東亮太委員】

北インター地域の土地区画整理事業の計画では、保育園の傍をダンプが通り心配していたのだが、看板を付けていただき、交通の流れに配慮していただいたようでありがたい。区画整理による企業の誘致が行われているようだが、今後の見通しを教えてください。

【新井昭夫委員】

パートナーシップの関係で、子どもたちに環境教育をしても、親の関心が薄いことが課題として挙げられる。最近では家庭でのコミュニケーションが希薄になり、親を巻き込むことが難しくなっている。和光市は会社勤めの家庭が多く、親も生活で精一杯だと思う。和光市を緑であふれたよいまちにするために、環境課を軸として多くの市民を巻き込み、緑を確保する活動を広げられたらいいと思う。

【小林新委員】

最近、テレビや新聞等で、和光市の交通の便がよいことによる住みやすさや緑の多さ、若者の多さなど、よい報道が続きうれしく思う。

環境保全について、複数年にわたる予算を確保し、長期的な視野に立った環境施策ができるといい。

また、水道道路の拡張については、環境問題を考えた上で案を進めてほしい。今のところ、住宅地の中に道路を通す案が一つだけ示されているが、場合によっては地下を通すなど、複数の案を作り、環境を守るよう努めてほしい。

【芝勝治委員】

先日第四小の子どもたちの環境学習に携わったが、最近の子どもはスマホでの付き合いが多く、家の中にいる家族ともスマホでやり取りする子もいると聞く。活発に意見を言える子もいるので、各家庭でのしつけが影響していると思う。子どものコミュニケーションについて親も先生も心配してほしい。

また、もっと外で遊んだほうが心身共に健全に育つと思う。外で遊べば自然のよさも分かる。そのためにも、球技ができる公園や遊具がある公園など、遊べる公園を作ってほしい。

【松本市長】

財政の現状であるが、福祉予算が膨張している。これは高齢者福祉に限らず、保育園関係などの子どもの福祉費用もかさんでいる。一方で、法人市民税が伸び悩んでおり、個人住民税は上がっているものの、予算を組むのが精一杯である。事業の取捨選択を行っているが、財源の掘り起こしや環境ファンドを持つことなども検討していきたい。特に、土地区画整理事業もそうだが、法人住民税や都市計画税の充実に努めている。

大人向けの啓発では、自分の経験だが、子どもが課外授業などから帰ってくると、とても楽しそうに家で話をする。環境講座などで大人に直接訴えていくのも大事だが、子どもを通じてその家族を巻き込む効果は大きいと思う。

白子宿特別緑地保全地区の話では、地権者の理解が得られ、よい関係ができたこともあり、指定までこぎつけることができた。今後相続などの課題はあると思うが、指定を足がかりに、まちづくりにどう生かすかについて、話し合いをしながら確立したい。白子宿には湧水を使った産業があり、それを生かした水の文化があった。どうしたらそれをビジュアルで理解してもらえるか。理想としては、例えば水車などを復元し、それを生かして地域の文化として認識してもらえるようにしたい。

斜面林などの緑地の開発については、所有者の相続時に市に相談が来る場合がある。寄附や売買などの提案があるが、個別に判断している。例えばその土地が市有になった場合、どのようなリスク対応をしなければならないのか、かかる費用も含めて検討する。市有にすると、安全上むしろコンクリートで埋めなければならない場合もある。そうやって負担などを検討しているうちに、不動産屋が入ってマンションになっていたりする。これは今後の課題である。

特にこれからの検討事項として挙がっていることだが、北口の区画整理の施行地域と、施行予定だったが外した地域があり、その外側に区画整理の網がかかっているが具体的な計画のない地域がある。そこに今回の新倉小の斜面林も入っていると思うが、規制をかけ続けることは問題だろうということで、規制を外すことに向けて、調査会社に委託し、まず調査を行っている。今後規制を外していく際に、うまく外していかないと、そういった斜面が全部マンションになってしまう。外す際のプランニングでうまく誘導する方法はないか、考えていく必要がある。市民の皆さんと相談しながらうまく進めて行きたい。

北インターのダンプの件だが、外環側道の迂回ルートができている。新倉ロータリーに信号を付けることで流れを変えたいと思っている。

北インターの区画整理地内では、2か所で大きな工事をしている。一つは北部郵便局と同規模、同様の施設で、内部にはテナントも入る予定。もう一つはエレベーター会社の本社ビルと実験棟で、いずれも県の条例により敷地の周囲を緑で囲うことになっている。また、単に緑化するだけでなく、緑化したところに果樹を植えるなどして、障害者雇用につなげられないかなど、緑化を生かして人の交流が生まれるよう目指している。

水道道路の工事を含め、北インター東部地区の計画では、これから環境アセスメントを行うところだ。どういった設計をすれば、環境への影響をうまく抑えられるのかを検討しながら推進していく。道路の敷設は、区画整理という方法を採用、何らかの形で交通を集める道路を通さないと市内の細い道路は麻痺してしまう。今、水道道路は2車線で、交通量は2万台で、それが常時渋滞しているような状態だが、それを越えると4車線の道路が必要となる。よって今後は4車線の道路を整備していかなければならない。しかし、4車線の道路を市で維持していくとなると、それは財政的に負担しきれないため、県道や国道として認められるだけのものを整備する必要がある。よって、今の水道道路をそのまま拡幅することは認められない。そのあたりを踏まえて、現状の案として示している。いずれにしても環境アセスメントは実施し、その結果を示していく。現在、環境アセスメント計画が各公共施設で縦覧できるようになっているので、ぜひそれもお覧いただきたい。

遊べる公園の話だが、公園の周りの家庭から、公園内でのボール遊び等に対する苦情がよく寄せられる。高いネットなどが設置できればよいのだが、財源との兼ね合いが難しい。うまく設備投資ができればと思う。

子どものスマホ利用については、中学生が自分たちでスマホ利用の基準を作ったかどうかということで、ちょうど先日中央公民館でワークショップを開いたところだ。睡眠不足やコミュニケーション不足の問題などもあるので、子どもたち自身に使い方について考えさせ、ルールができればスマホ環境もよくなると思う。

【戸部教育長】

大人向けの環境教育は難しいが、イベントに親も参加してくれるとありがたい。

また、今度、白子文化の会で清水かつらの講演会をやるが、こういった講演会は大人の参加率が上がる。湧水や緑地だけでは取り込めない大人たちにも、違った視点から講座や講演会を実施することによって、例えば、昔、白子には湧き水を使ったおいしいどん屋があったが、そのような湧水の歴史や文化なども絡めて地域のよさを伝えられればよいと思う。生涯学習課のほうで大人向け講座について検討したい。

子どもの携帯電話の問題は、青少年問題研究会で話題となっており、市内すべての中学生の意見を吸い上げて、ルール作りを行っている。来年度の1学期頃に保護者に示せる予定だが、そうすると変わってくると思う。

白子宿特別緑地保全地区では、湧き水の会のご協力の下、教職員初任者実地研修を行っている。熊野神社の上のほうに、昔、ペプシコーラの工場があったことなど、今の若い教職員たちは知らない。教えていかないといけない。歴史的背景も含めてとてもよい地域なので、環境マップを使って、教職員に対して積極的にPRしたい。

【市民環境部長】

去る1月25日（水）に、平成27年度施策実施状況に対する評価・提言を受け、今後の課題と方向性について共通認識を持ち、施策の計画的な推進を図るため、庁内職員で組織する「平成28年度和光市環境基本計画推進調整委員会」を開催し、評価・提言のフィードバックを行った。それと併せて、各課から事業の推進状況について報告をもらい、全庁的な情報の共有と、必要な庁内調整を行えるような体制を整えた。

施策の推進に当たっては、取組が着実に進んでいる施策が多くある中で、困難な課題が山積し、取組があまり進んでいない施策もあるが、厳しい財政状況を踏まえ、国・県等のいろいろな制度を活用しながら、行政一丸となって取り組むので、引き続きご協力をお願いしたい。

○ 和光市自然環境マップについて

【高橋絹世委員】

平成28年度行政提案型協働事業として、NPO法人和光・緑と湧き水の会と市で取り組んできた和光市自然環境マップがようやく完成した。和光市の自然環境に親しみを持ち、身近な自然を次世代に残すため、ぜひ多くの方に手にとっていただき、散策のお供として、また、学校での地域や環境学習に役立ててほしい。特に子どもたちに活用してもらうため、単年度で配布を終えるのではなく、複数年度にわたり配布していきたい。

大人が見ても、和光市にこんなに自然があるのだなと驚かれるので、まずは大勢の方に手に取っていただきたい。

また、早春の和光散歩～自然と歴史を訪ねてと題して、3月12日（日）に環境マップ完成記念の散策会も企画している。

【高橋勝緒委員】

中学生にもぜひ利用してほしい。

【市長】

中学生では、受験時の内申書対策に、ボランティア活動をする子もいる。動機は受験対策でも、ボランティアでかかわることで、環境保全活動に興味を持ち、はまる子もいると思う。そういった機会を整備したいと考えているので、その際はご協力をよろしくお願いしたい。

○ その他

次回の会議は3月21日（火）15時から602会議室で開催する。